

今は昔、
世界の果てに、
小さなたね屋が
あったとき。



息の跡

trace of breath

監督・撮影・編集：小森はるか
編集：秦岳志 整音：川上拓也 特別協力：瀬尾夏美
プロデューサー：長倉徳生、秦岳志
助成：文部科学省文化芸術振興費補助金
製作：カサマフィルム＋小森はるか 配給：東風
2016年／93分／HD／16：9／日本／ドキュメンタリー

www.ikinoato.com

陸前高田から届いた、忘れられない風景の記録。映像作家・小森はるか、待望の劇場長編デビュー作。



ひとりのたね屋が綴った、彼の町の物語

いまは、もういない誰かへ、まだいない誰かのために

岩手県陸前高田市。荒涼とした大地に、ぽつんとたたずむ一軒の種苗店「佐藤たね屋」。津波で自宅兼店舗を流された佐藤貞一さんは、その跡地に自力でプレハブを建て、営業を再開した。なにやらあやしげな手描きの看板に、瓦礫でつくった苗木のカート、山の落ち葉や鶏糞をまぜた苗床の土。水は、手掘りした井戸からポンプで汲みあげる。

いっばうで佐藤さんは、みずからの体験を独習した英語で綴り、自費出版していた。タイトルは「The Seed of Hope in the Heart」。その一節を朗々と読みあげる佐藤さんの声は、まるで壮大なファンタジー映画の語り部のように響く。さらに中国語やスペイン語での執筆にも挑戦する姿は、ロビンソン・クルーソーのようにも、ドン・キホーテのようにもみえる。彼は、なぜ不自由な外国語で書き続けるのか？ そこには何が書かれているのだろうか？



ふわりとした、けれど、確かなまなざし
まるで、生まれたばかりの映画のように

監督は、映像作家の小森はるか(『the place named』、『波のした、土のうえ』*)。震災のあと、画家で作家の瀬尾夏美とともに東京をはなれ、陸前高田で暮らしはじめた彼女は、刻一刻とかわる町の風景と、そこで出会った人びとの営みを記録してきた。失ったものと残されたもの。かつてあったものと、これから消えてゆくもの。記憶と記録のあわい。そのかすかな痕跡とぬくもりを彼女はうつしだしていく。あの大きな出来事のあとで、映画に何ができたのか。そのひとつの答えがここにある。

*瀬尾夏美との共同制作

fb.com/ikinoato @ikinoato www.ikinoato.com

2月より、ロードショー

全国共通特別鑑賞券¥1,300(税込)発売中

当日一般¥1,700 / 大専シニア¥1,200 / 高中障¥1,000 / 小¥700(全て税込)

●期間中、『the place named』(小森はるか)、『波のした、土のうえ』(小森はるか+瀬尾夏美)も上映予定!

JR総武線・都営地下鉄大江戸線
東中野駅より徒歩1分

ポレポレ東中野

03(3371)0088
www.mmjp.or.jp/pole2/

山手通り
地下鉄 大江戸線 A1出口
ポレポレ 都営地下鉄
JR東中野駅
中野 新宿